

「農」と里山シンポジウム～三富(さんとめ)を未来に受け継ごう！～

三富地域を後世に残すためには

2017年9月24日 川越市「ウェスタ川越 多目的ホール」

岩手大学 広田純一

今日の話

1. 三富新田の概要
2. 農村の文化的価値への注目
3. 三富地域の価値
4. 三富地域の継承のために

1. 三富新田の概要

三富新田の短冊状地割



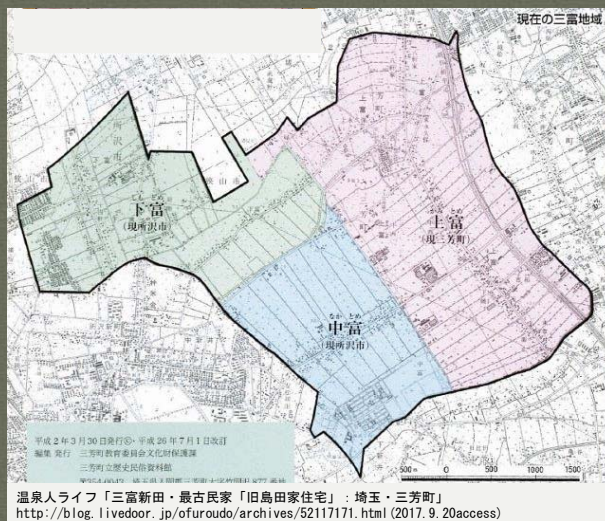
三富新田の短冊状地割



三富新田 (さんとめしんでん)

- 武蔵野台地北東部に位置する元禄期(1688 - 1704)の畑作新田。三富とは上富, 中富, 下富の総称で, 武蔵川越藩(当時の藩主は柳沢吉保)の藩営新田である。幅6間(約11m)の道路を縦横に開き, それに沿って間口40間(約73m), 奥行375間を一区画として民家ならびに耕地を短冊状に配置した。1696年の検地帳によるとその総反別は900町歩余(約9km²), 石高は3400石余, 戸数180の大新田で, 1戸当りの耕地は5町歩前後(うち屋敷地5畝歩(約500m²))の整然たる畑作新田である。武蔵野台地の代表的な新田集落。(世界大百科事典第二版)

三富新田の範囲



2. 農村の文化的価値への注目

世界遺産における文化的景観 (Cultural landscape)

- **自然と人間の共同作品**。人間を取り巻く自然環境からの制約や恩恵又は継続する内外の社会的、経済的及び文化的な営みの影響の下に、時間を超えて築かれた人間の社会と居住の進化の例証。

・ (「世界遺産条約履行のための作業指針」ユネスコ, 1992年)

- 3つの類型

1 「人間の意志により設計され、創出された景観」

➢ 庭園など

2 「有機的に進化してきた景観」

➢ **農村景観**など

3 「関連する文化的景観」

➢ 宗教上の聖地など

奈良文化財研究所景観研究室 <https://www.nabunken.go.jp/org/bunka/land-whats.html>

Cultural landscape (UNESCO)

- Cultural landscapes are cultural properties and represent the "**combined works of nature and of man**" designated in Article 1 of the *Convention*. They are illustrative of the evolution of human society and settlement over time, under the influence of the physical constraints and/or opportunities presented by their natural environment and of successive social, economic and cultural forces, both external and internal.

UNITED NATIONS EDUCATIONAL, SCIENTIFIC AND CULTURAL ORGANISATION
 "Operational Guidelines for the Implementation of the World Heritage Convention" 2008

世界遺産に登録されている文化的景観

紀伊山地の霊場と参詣道

石見銀山遺跡とその文化的景観



文化庁HPより

文化財保護法における文化的景観

- 2004年の文化財保護法の改正により導入された新しい文化財の категория。
- **文化的景観**とは「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」(文化財保護法第二条第1項第五号)
- 国は文化財としての価値から特に重要なものを、**重要文化的景観**として選定。

重要文化的景観 平成29年2月9日現在, 51件が選定



近江八幡の水郷



一関本寺の農村景観



アイヌの伝統と近代開拓による
沙流川流域の文化的景観



遊子水荷浦の段畑

文化庁HPより



遠野 荒川高原牧場



蕨野の棚田

世界農業遺産 “Globally Important Agricultural Heritage Systems”

- 社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形づくられてきた農業上の土地利用, 伝統的な農業と, それに関わって育まれた文化, ランドスケープ, 生物多様性などが一体となった世界的に重要な農業システムを国連食糧農業機関(FAO)が認定する仕組。(農水省)

➢ (注) 林業・漁業も含む。

- 国連食糧農業機関(FAO)の定義:

- コミュニティの環境及び持続可能な開発に対するニーズと志向とコミュニティの共適応により発展してきた, 世界的に重要な, 生物多様性に富む, 優れた土地利用システム及びランドスケープ(注)

➢ (注) 土地の上に農林水産業の営みを展開し, それが呈する一つの地域的まとまり。

文化的景観と世界農業遺産の違い

- 文化的景観 (Cultural landscape)
 - 景観地(有形物)を対象
- 世界農業遺産 (Globally Important Agricultural Heritage Systems)
 - 農業システム(無形物)を対象。

世界農業遺産

農水省農村振興局HPより

- 世界では15カ国36地域, 日本では8地域が認定(2017年9月現在)



能登の里山里海



トキと共生する佐渡の里山



清流長良川の鮎



クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環



阿蘇の草原の維持と持続的農業



みなべ・田辺の梅システム

農林水産祭「むらづくり部門」

- 「農林水産祭」は、全国民の農林水産業に対する認識を深め、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲の高揚を図るため、国民的な祭典として1962年より開始される。天皇賞、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の3賞がある。
- 「むらづくり部門」は、「農林水産祭」の表彰行事7部門の一つとして1979年に設置。むらづくりの全国的な展開を助長し、もって地域ぐるみの連帯感の醸成及びコミュニティ機能の強化を図り、農林漁業及び農山漁村の健全な発展に資することを目的とする。
- 2015年度に、埼玉県入間郡三芳町「三芳町川越いも振興会」が天皇賞を受賞。

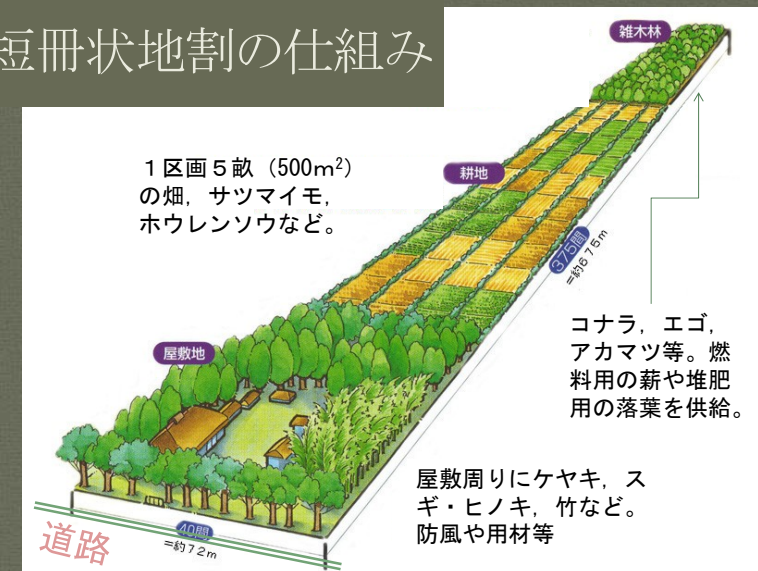
3. 三富地域の価値

世界(日本)農業遺産の視点から

落ち葉堆肥農法評価のポイント

1. 風が強く、火山灰土のため栄養分が少なく、水に乏しいという農業には厳しい自然条件を克服するため、個々の土地区画を道路に面した方から、**屋敷地・耕地・平地林を短冊状に組み合わせ**て配置することで、集落全体で土壌の飛散防止、地下水涵養など複数の機能を持たせて**持続的農業**を定着させ、食糧需給に応えた。
2. 平地林に樹種を選定した植林を行い、下草刈りや落ち葉掃き等の管理を行い、その落ち葉を堆肥化し、**落ち葉堆肥による土壌改良とそれによる安定的な農産物の栽培**を「落ち葉堆肥農法」として行っている。
3. これら平地林の管理により、**明るい二次林が形成され、生物多様性が保全**されている。

短冊状地割の仕組み



落ち葉堆肥農法



落ち葉掃き



堆肥化



収穫



作付け・栽培



すき込み

写真出所) 武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会

明るい二次林と生物多様性

雑木林



キンラン



ミヤマセセリ



オオタカ

写真出所) 武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会

世界・日本農業遺産の認定基準

1. 世界的な重要性

(1) 食料及び生計の保障

- ▶ 多種多品目の露地野菜を生産する一大産地
- ▶ 落ち葉堆肥農法の説明を加えた和菓子・洋菓子・焼酎やビールなど。
- ▶ 希少品種である「紅赤」の生産維持。

(2) 生物多様性及び生態系機能 →略

(3) 知識システム及び適応された技術 →落ち葉堆肥農法

(4) 文化、価値観及び社会組織(農文化)

- ▶ 「小正月」、「七夕」、「十三夜」など
- ▶ さつまいもと麦を中心とする多様な食文化

(5) 優れたランドスケープ及び土地と水資源管理の特徴 →短冊状地割

六次産業化



写真出所) 武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会

農文化

まゆ玉／豊作祈願



七夕／雨乞い

写真出所) 武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会



十五夜／収穫祝い

世界・日本農業遺産の認定基準

2. 現代的な重要性

①平地林の木々が二酸化炭素を吸収し、落ち葉堆肥として畑に貯留する「低炭素社会」、②自然資源を堆肥として利用した「環境保全型社会」、③生物多様性と生態系を保全する「自然共生社会」という現代社会が目指すべき「持続可能な社会」を実現(しつつある)。

他地域のモデルとして重要な存在。



セネガルの国家エコビレッジ庁長官の視察(農法と6次産業化)

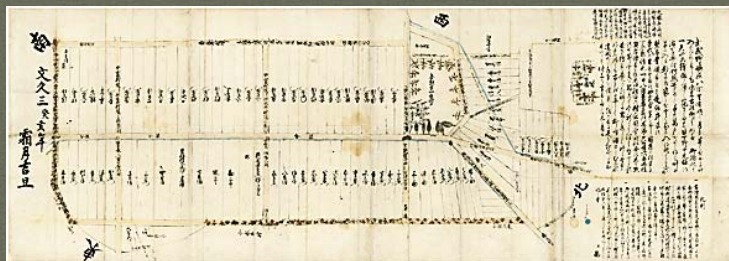
写真出所) 武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会

世界・日本農業遺産の認定基準

3. 歴史的な重要性

江戸時代初期に、土地が痩せ水に乏しい条件不利地を計画的に開発した農業地域。以後360年にわたって、落ち葉堆肥農法を中心とする持続的な畑作農業を展開。

この間、度重なる飢饉や干ばつに耐え、また戦後の都市化による農地転用や兼業化の大きな流れにも埋没せずに、伝統的な畑作農業を維持。



Key Note 「江戸時代から受け継がれる土壌作りー 埼玉県三富新田 ー」
http://www.jiuid.or.jp/ardec/ardec53/ard53_key_note7.html (2017.9.20access)

日本農業遺産の認定基準

1. 変化に対するレジリエンス

- 平地林や屋敷林による地下水涵養, 防風機能
- 耕地への低木列植による耕作土の飛散防止
- 災害時の避難スペース



2. 多様な主体の参加

1. 市民参加の落ち葉掃き
2. 平地林の木材を活用した家具・小物・玩具づくり

3. 6次産業化の推進

- 「川越いも」など, 落ち葉堆肥農法の説明を加えた和菓子・洋菓子・焼酎やビールなどの製造
- 「紅赤」を使った「川越いも茶」
- 平地林の木材を活用した家具・小物・玩具づくり

写真出所) 武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会

文化的景観としての三富地域

- ・新田開発の歴史
- ・短冊状地割
- ・落ち葉堆肥農法
- ・生きた生業(農業)
- ・生業(農業)にちなむ伝統文化



この価値を磨き, 伝えること

説明を要する景観

- ・景観の解説が必要



見えるのはこちら



こうは見えない

短冊状地割の仕組みや歴史を伝えること!

写真出所) 武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会

4. 三富地域の継承のために

地域継承のための課題

- ・落ち葉掃きの存続
- ・平地林の管理
- ・短冊状地割の都市化からの保全
- ・相続税対策
- ・その他

課題解決の方向性

① 地域の本質的価値の理解と普及啓発

- ・ソトおよびウチに向けて
- ・**体験を通じた理解**の重要性～百聞は一見にしかず
- ・研究者・芸術家等による価値付けと情報発信

いも掘りまつり



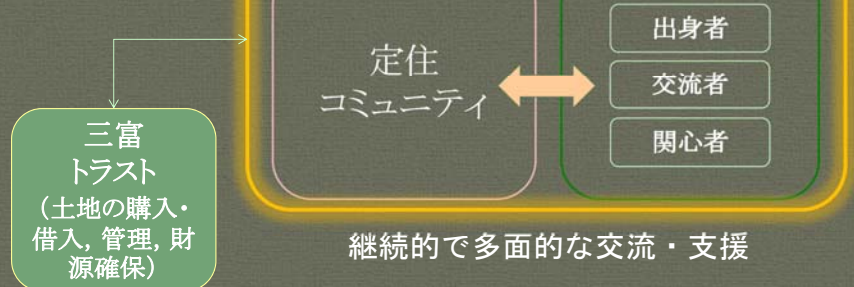
写真出所) 武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会

課題解決の方向性

② 三富(拡大)コミュニティの形成

- ② 地元住民+近隣住民(沿線住民)
- ③ 県民+首都圏住民
- ④ 国民+海外

③ 三富トラストの設立?



課題解決の方向性

④ 地域の課題解決力(=地域力)の向上

- 地域の共通の課題(困りごとや悩みごと)を住民が協同で解決する力、または
- 地域の共通の目標(夢や願い)を住民が協同で達成する力

↳ どうやって地域力を高めるか?

地域住民が協同で課題解決・目標達成の
実践を積み重ねるしかない

地域力向上の手順と方法

① 地域の課題・目標の共有

- 住民同士で地域の「課題」や「目標」を共有する

② 課題解決・目標達成の方法の検討

- 課題解決や目標達成の方法を住民自らが検討する

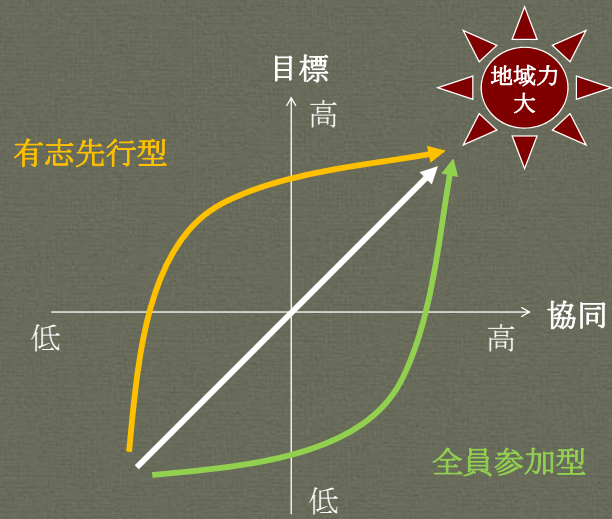
③ 実行体制づくり

- 実践に向けて役割分担を決める

④ いざ実践!

- できるだけ多くの人を巻き込んで「課題解決」「目標達成」に取り組む

地域力向上の2つのタイプ



課題・目標の共有

- 住民にとっては日常生活が一番大切
- 地域には関心がないのが普通(とくに若い人)

いかにその気になってもらうか？



現状を知ってもらうことが一番の近道



お宝さがし, 地域点検,
地元遠足など

おわりに

良い地域とは？

腹がくくれている 地域

ないものねだりしない
あるものを生かす



この土地で暮らしていくことへの覚悟